

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ● 京丹波

京丹波

No.31

2008年
5月15日発行

季節の風物詩このぼり

特集

地産地消



特集「地産地消」の取り組み

農業を基幹産業とする地域で地産地消を推進するには、開発した特産物の情報発信や、農産物を販売するための拠点施設の役割が重要になります。

地産地消を推進するには

地産地消の主な取り組みとしては、直売所や量販店での地域農産物の販売、学校・福祉施設・観光施設での地域農産物の利用、地域農産物を活用した特産物の開発などがあります。

問題により、消費者の意識は安心・安全を強く求める傾向にあります。このように、消費者意識が変化することで注目を集めているのが、地域で生産された農産物を地域で消費する「地産地消」の取り組みです。

地産地消の取り組みでは、消費者と生産者が身近な関係となることから、消費者は新鮮で安心・安全な農産物が安く手に入り、生産者は規格に捉われないおいしい農産物を出荷することができます。また、地産地消は、地域農業の活性化や地域ブランドの育成、食育の推進にもつながるため、多くの地域で取り組まれています。

「地産地消」とは
みなさんは「食事」と聞いて何を思い浮かべますか。「毎日の楽しみ」「家族団らんの場」「栄養補給の手段」など、人それぞれ違いはあると思いますが、共通しているのは、さまざまな食材を調理して作ることに、子どもから高齢者まで毎日欠かすことができないことです。

食品に対する考え方は、手軽さや安さに重点が置かれてきましたが、BSE問題、消費（味）期限の虚偽表示、国内で使用が認められていない食品添加物の混入、輸入農産物の農薬残留、無登録農薬使用などの



今月の表紙

質志鍾乳洞公園では、ゴールデンウィークに合わせて、季節の風物詩である「こいのぼり」を園内に設置されています。こいのぼりの設置は開園当初から続いており、今年も約30体のこいのぼりが訪れる多くのみなさんを楽しませていました。

広報 京丹波 No.31 CONTENTS

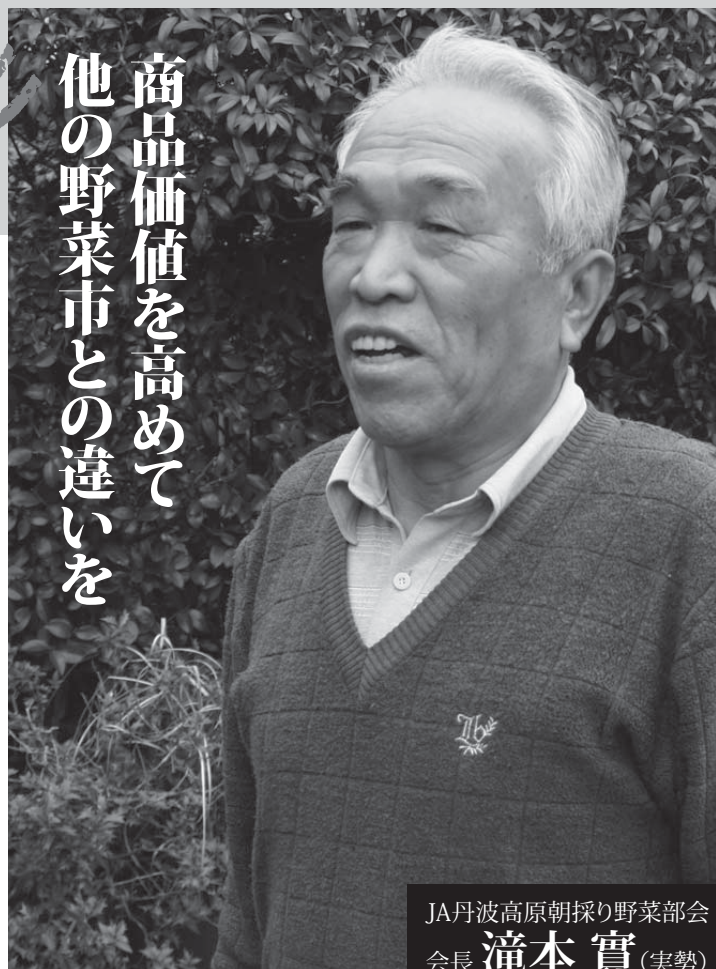
- 2 特集 地産地消
- 8 住民自治組織によるまちづくり基本指針を定める
- 10 Dr's Message いきいき健康術
- 11 人の動き
- 12 フラッシュ TOWN NEWS 2008
 - 最高級品質の丹波黒大豆を
—京丹波町黒大豆生産者大会
 - 忘れられない思い出の日
—入学・入園式
 - 京丹波町商工会が発足
—京丹波町商工会開所式
 - 人形が結ぶふれあいの輪
—ふるさと人形展
 - 新体制で地域の防災活動を
—京丹波町消防団入退団及び役員任命式
 - 書彩の美しさにうっとり
—書彩会・京丹波展
 - 住民自治によるまちづくりを目指して
—京丹波町北部振興会総会
 - 深まる友好関係
—姉妹都市協会会長・理事歓迎会
 - 写真が伝える町の魅力
—京丹波町観光写真コンクール

私たちが
地域産物を
お届けします



丹波高原朝採野菜市（「丹波マーケス」うるおい館・須知）

商品価値を高めて
他の野菜市との違いを



JA丹波高原朝採野菜部会
会長 滝本 實（実勢）

道の駅での野菜市は、J A 京都丹波支店内にある J A 丹波高原朝採野菜部会（会員数八十五人）が主体となつて、平成七年から取り組んでいます。

野菜市で年間を通じて販売している商品は、ねぎ、ほうれんそう、玉ねぎ、じゃがいも、人参などがありますが、都会から来られるお客さんは、春は筍や山菜、夏（盆）は小菊、秋は黒豆の枝豆など、季節を感じさせる農産物を求めて来られます。現在は、ハウス栽培の普及により、旬の食材を早い時期に、安い価格でお客さんに提供することができます。

野菜市で大切なのは、生産者と消費者が顔の見える関係を築くことなので、会員が当番制で販売業務や野菜の調理方法の説明などを行っています。また、消費者に安心感を持つてもらうために、会場内には生産者の名前とコメントを添えた顔写真も掲示しています。

部会では地産地消の推進をめざして、地元で収穫した農産物を町内の学校給食センターなどへ出荷しています。地元野菜を学校給食で利用してもらうことで、子ども

たちには地元が育んだ野菜のおいしさを知ってもらえます。

今後は、他の野菜市との違いを出すために、商品価値を高める取り組みを考えていく必要があります。また、京都縦貫自動車道（丹波・綾部安国寺）の開通後も、お客さんが道の駅に立ち寄ってもらえるように、地域の特色を生かした商品づくりや、消費者に喜んでもらえるような新鮮で安心な野菜づくりに努めていきたいと思います。



「道の駅」は地域情報の発信拠点

道の駅は、道路を中心に情報を発信する拠点施設として位置づけられており、地域の文化や名所、特産物の情報を多くの利用者に発信しています。

現在、町内には、「丹波マーケス」（須知）、「瑞穂の里・さらびき」（大朴）、「和」（坂原）の三つの道の駅があり、それぞれ特色を生かした施設として町内情報を発信しています。

丹波マーケスは国道九号沿いにあり、「高原の風わたる平成の宿場町」をキャッチフレーズに、丹波黒大豆、丹波栗、丹波ワイン、黒豆味噌・アイスクリームなどの特産品を販売しています。商業施設との複合施設で、丹波インターチェンジ付近に位置しているため、町内外を問わず多くの方が利用されています。

瑞穂の里・さらびきは国道一七三号沿いにあり、「山里の恵みてんこ盛り」瑞穂の里・さらびき」をキャッチフレーズに、丹波黒大豆、丹波栗、大納言小豆、ハタケシメジ、ぎんづばなどの特産品を販売しています。ホッケー場やグラウンドゴルフ場、体育館などのスポーツ施設を含めて「グリーンランドみずほ」として親しまれています。

和は国道二十七号沿いにあり、「大自然がパノラマ式に展望できる道の駅」をキャッチフレーズに、和知黒（黒豆）を加工した甘納豆・味噌・のど飴・ゼリー・きな粉、みず菜入り干し羊かんなどの特産品を販売しています。伝統芸能常設館と隣接し、周辺には

カヌー会場や山野草の森、親水公園があります。

三つの道の駅では、町内情報を発信するためにさまざまな工夫を凝らした取り組みが展開され、地産地消を推進するための地元農産物直売所（野菜市）をそれぞれ開設しています。

生産者と消費者が顔の見える関係

地産地消の取り組みで農産物直売所が注目される背景には、これまでは収穫された農産物を都市部まで運んで販売していたのが、消費者がよりよい農産物を安く手に入れるために生産地域まで移動する方向に変わつたことがあります。



道の駅「丹波マーケス」（須知）



道の駅「瑞穂の里・さらびき」（大朴）

道の駅は現在、丹波・瑞穂・和知地域にそれぞれ設置されているので、生産者は朝早く収穫した新鮮な農産物を持ち込むことができ、消費者が求めるニーズに応えることができます。また、生産者と消費者が顔を合わせる関係を築くことで、消費者は農産物に対する安心・安全を得られ、生産者は地元農産物の良さを理解してもらうことで生産意欲が向上します。

道の駅で農産物直売所を開設することで、地域情報の発信と地産地消の取り組みが展開され、地域の活性化を目指した拠点施設としての役割を果たしています。

現在、道の駅で開催されている農産物直売所は、地域で農業を営むみなさんが主体となつて運営されています。



道の駅「和」（坂原）

私たちが
地域産物を
お届けします



わちふれあい朝市(坂原)

朝市から新たな特産品を



わちふれあい朝市の会
会長 井爪 大蔵(西河内)

私たちが
地域産物を
お届けします



道の駅「瑞穂の里・さらびき」野菜市(大朴)

お客さんに
喜んでもらえる野菜市を



道の駅「瑞穂の里・さらびき」
農林産物等販売部会
会長 高橋 幸雄(水原)

道の駅での朝市は、わちふれあい朝市の会(会員数一六五人)が主体となつて、平成十一年から取り組んでいます。

道の駅で開催する朝市のメリットは、新鮮な農産物販売がもたらす集客力にあります。朝市は、水・日曜日と祝日の午前中を開催日としています。道の駅に立ち寄られたお客さんがいつでも新鮮な農産物を購入できるように、道の駅の営業日は常時、店内に農産物販売所を設けています。長時間設置する農産物販売所では、新鮮な農作物を提供するために、商品の搬入時間を定めて、会員が収穫したての野菜などを適宜搬入しています。

地産地消の取り組みの重要性は会員に伝えていますが、丹波・瑞穂地域と比べて地元のお客さんの数が少ないので、町外から来られるお客さんとの対話などで信頼を得られるように努力を重ねています。

また、今の時代は、生産できる野菜の種類や品目が多種多様化しているので、「消費者が求める野菜が」「人を引きつける珍しい野菜か」などの消費者ニーズを把握するために、会として視察や研修も実施しています。

今後は、お客さんが購入しやすい値段設定を考えるとともに、朝市の会が消費者ニ

わちふれあい朝市

ニーズを把握して町の新たな特産品を生み出す場となるような活動を展開していきたいと思っています。



道の駅
「瑞穂の里・さらびき」
野菜市

催し
開日 毎日(毎月第二・四木曜日以外)
午前九時から午後六時
※九月から三月は午後五時まで

道の駅での野菜市は、平成十三年に設立した農林産物等販売部会(会員数約百九十人)が主体で取り組んでいます。

野菜市では、地元特産のほうれんそう、伏見とうがらし、小豆、枝豆や旬の食材を販売しており、年間で約二〇〇種類の地元産物が店頭に並びます。以前は、収穫しても自宅で食べきれない農産物は処分していましたが、道の駅で野菜市を始めたことで、丹精込めて作った野菜などを都会の人に安く提供することができます。また、野菜市で

はさまざまな地元産物が販売されるので、会員が自宅で生産していない野菜を購入したり、栽培方法などの情報交換も行っています。現在は、道の駅が、交流の場、情報交換の場となっています。

野菜市を道の駅で開催するメリットは、販売などの専門的な分野を道の駅に任せることで、会員は農産物栽培に専念でき、高齢者が多い会員の負担軽減につながっていることです。

部会では、会員に対して「品質や価格設定を自分本位に考えるのではなく、野菜市全体のこととして考えていこう」と話しており、お客さんを第一にした考え方を共有するように努めています。

お客さんとの顔合わせの場としては、毎年十一月二十三日に「感謝祭」を開催し、会員が揃いのハッピを着て、駐車場内の交通整理や販売業務を行うとともに、無料で豚汁やつきたてのお餅を提供しています。

今後は、野菜市の販売量が増えるように安心・安全な野菜づくりに取り組むとともに、交流拠点である道の駅の評判を落とさないように農産物の品質向上に努めていきたいと思っています。

催し
開日 毎週水・日曜日・祝日
午前八時三十分から
午前十一時三十分

自分たちが思い描く
まちづくりをめざして

住民自治組織による まちづくり基本指針を定める

住民自治とは

「まちづくりは行政の仕事」として考えられてきましたが、町の良さを「一番知っているのは、地域を愛し、地域にお住まいのみなさんです。」

地域が昔のように元気な姿を取り戻すには、住んでいるみなさんが思い描く「町」の姿を実現する必要があります。住んでいる

からこそ感じる不満や不便を一人で抱えるのではなく、地域の課題としてとらえ、地域のみなさんが協力して取り組むことが「住民自治」の求める姿です。

住民自治を 実現するために

住民自治組織によるまちづくり検討委

住民自治組織の役割

近年の少子高齢化や住民ニーズの多様化により、集落単位で地域活性化に向けた活動を行うことが困難になってきています。

今後、充実した地域づくりを行うには、面積や地縁のつながりがある集落間を越えた広域的な範囲で地域づくりを実践する必要があります。

地域における課題の解決や、魅力ある地域づくりを実践するのが住民自治組織です。

まちづくりの目的

指針では、住民自治組織によるまちづく

(三) 共助による地域づくり

「体化」

地域が抱える共通の課題を解決するため、従来の集落の範囲を越えて共に助け合いながら一体的な地域づくりを推進します。

(四) 連携により地域力を高める

「地域力」

地域住民や従来から縦割りで活動を行ってきた各種団体が、地域における横のつながりを重視し連携を図ることにより、一層の地域力を高めていきます。

(五) 協働のまちづくりへの基盤づくり

「協働」

今後のまちづくりにおいては、町民と行政による協働が不可欠です。住民自治組織は、行政と対等な関係でまちづくりを進めていくための地域の基盤づくりです。

協働の まちづくりに向けて

地域課題や行政課題を克服し、魅力あるまちづくりを進めていくためには、これまでの行政主導によるまちづくりから、行政、地域、民間事業者などによる協働を基本としたまちづくりを進めていかなければなりません。

住民自治組織の育成は、地域における住民自治の実現を目指すものであり、同時に地域における協働の主体となる組織の育成を図るものとして取り組みを推進していきます。

りの目的を次のとおり定めています。

(一) 住民自治の確立

「自主・自立」

住民一人ひとりが地域の一員であることを再認識し、「地域のことは地域で考え、実行する」という自主・自立の地域づくりを行うことにより真の住民自治を確立します。

(二) 個性ある地域づくり

「個性化」

自然、文化など豊かな地域資源を活用し、地域の特性に応じた取り組みを進めることにより個性ある地域をつくり、京丹波町の魅力あるまちづくりにつなげていきます。

住民自治組織の 設立を支援

四月の機構改革で地域づくりを支援するための「まちづくり推進担当」を設置しました。

〈まちづくり推進担当〉

▼企画情報課(本庁)

総合企画係長 中野竜二

総合企画係 小原直也

▼瑞穂支所

地域総務室長 野村雅浩

地域総務室 小松聖人

▼和知支所

地域総務室主任 堀友輔

地域総務室 山下稔



住民自治組織のあり方について議論するまちづくり推進担当者

住民自治組織のあり方

1. 役割の明確化

- 集落と住民自治組織は互いの役割を明確にし、相互の連携により地域の機能を充実させる。
集落:生活の基礎、基盤
住民自治組織:魅力ある地域のまちづくりを実践する組織

2. 組織の範囲(区域)

- 組織の範囲は、面積、人口、歴史的な経緯など、さまざまな事情を勘案すると、おおむね顔と名前が分かり合える小学校区(一部旧小学校区)以下とすることが適当である。
- 範囲の設定にあっては、課題、目的などが共有できる範囲で構成することが重要であるため、地域での検討によって定める。

3. 組織体制

- スリム化、効率化、役割分担など、現存の組織、現有資源など、あるものを効率よく機能させていくしくみが重要。
- 集落、老人会、女性会、子ども会、有志の会など、その地域にある多くの団体を含め構成することが望ましい。
- 若者や女性の参加しやすい環境づくりに努めることが重要。

4. 自主財源の確保

- 地域において主体的に活動する組織であることから、それに必要な自主財源の確保は重要な課題である。⇒地域住民などによる会費や取り組みから生まれる収入などが挙げられる。

5. 各種団体との連携

- 住民自治組織とNPO法人などの地域を限定せず同じ「志」により構成されたテーマ型グループが協力し、互いの個性を生かした協働のまちづくりが進められていくことを期待。



いきいき健康術

第9回

体を動かそう

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は和知診療所の理学療法士 大田有次先生。毎日体を動かすことの大切さについてのお話です。

み

なさんの体の動きは、どのようにして維持されているのでしょうか。毎日の生活の中で、体を動かすということを特別に意識しないで生活されている方も少なくないかもしれません。しかし、もし体をまったく動かさない状態が続くと、足腰の筋力が衰え、関節の動きが硬くなり、座ったり立ったりすると体がふらつきます。動けないという理由で用事をしなくなると、自分の行動スケジュールや身だしなみにも気を使わなくなり、考えることをしなくなると、考えたり記憶したりする力も衰えていくことが起こってきます。何気なくでも、毎日体を使っているからこそ、体のいろいろな能力が維持されているということがわかります。

もう少し踏み込んで、意識的に体を動かせば、もっといいことがあります。なまっていた体の動きを強化することで、しっかりと動けるようになり、転倒を予防できたり、神経や脳の動きが活性化されて気分が明るくなったりします。最近話題の肥満・高血圧・高脂血症・高血糖などからなるメタボリックシンドロームの予防や治療にも役立ちます。加齢に伴う身体機能の衰えを防ぐアンチエイジング（抗加



今月の医師

理学療法士 大田有次先生 (和知診療所)

齢)ということも可能です。運動できる程度は、人によってさまざまですが、寝たきりの方からスポーツ選手まで、子どもから高齢の方まで、体に無理の無い範囲で、状態に応じて運動する習慣を身につけるということが大切です。さあ、学校でのクラブ活動に、趣味のスポーツに、ウォーキングに、グラウンドゴルフに、ゲートボールに、農作業に、消防団の訓練に、リハビリテーションに、体を動かすことに努めていただき、元気な生活を送っていただきたいと思います。

人の動き

(敬称略)

区長さんお世話になります

【丹波地区】

笹尾／瀧村藤夫
中畑／今西 剛
辻村／横澤 豊
中村／清本孝次
下村／小峰章司
鎌倉／堀林 武
西階／中村 忍
水戸／中村次郎
新水戸／岩崎均二
須知／太田 実
市森／内海武治
上野／須知 穰
蒲生／林 稔
蒲生野／下野善明
曾根／上田 勝
院内／中野 肇
幸野／西上盛商
森／伊野善人
塩田谷／小栗喜代司
安井／安井孝雄
富田／片山和弘
豊田／山村 彰
上豊田／野口正利
実勢／小林 亨
下山／松村篤郎
グリーンハイツ／吉川文則

【瑞穂地区】

中台／雑賀逸三

橋爪／上田公美

和田／太田季好

井脇／西野一志

大朴／友金一文

井尻／大門長一

八田／西下 保

小野／谷内 豊

長谷／水間敏光

坂井／上田眞道

水原／足立静男

上大久保／伴田 哲

下大久保／西田 肇

鎌谷下／荻野 繁

鎌谷中／塩田満義

鎌谷奥／中南久雄

東又／太野正平

保井谷／竹内春雄

栗野／今西昭彦

妙楽寺／上田三雄

水呑／上西一夫

三ノ宮／小山正幸

實志／前田和成

戸津川／後藤 武

猪鼻／梅垣茂信

行仏／谷岡 保

中村／三好悦夫

庄ノ路／林 守

和田／岩田 哲

上野／山口保信

下村／橋野 勲

北久保／山根 智

【和知地区】

中山／畑中光好

升谷／出野 均

市場／采尾 勝

大倉／乾 良輝

篠原／山本 修

大迫／嶋 博一

長瀬／松下圭一

塩谷／栗林英治

上乙見／片山輝夫

下乙見／澤田幹生

西河内／藤田昌啓

下栗野／川邊年光

細谷／元井陽一

上栗野／梅原治雄

仏主／岡本 隆

本庄／吉田 昭

坂原／岡野 誠

中／野間一俊

角／藤山丁則

広瀬／村上秀徳

才原／原田光男

大簾／片山茂史

広野／新宮雅之

出野／片山隆雄

稲次／蒲生 稔

安栖里／樋口幸雄

小畑／堀川勝久

教職員の異動

【転出】()は転出先等。

竹野小／児嶋かおる(南丹市立吉富小)

丹波ひかり小／坂瀬 哉

(亀岡市立千代川小)

下山小／井尻陽子(南丹市立神吉小)

▼岡泰之(南丹教育局)

▼中井典宏(南丹市立摩気小)

松山小／佐々木清子(南丹市立殿田小)

明俊小／教頭 藤田道子(南丹市立鶴ヶ岡小)

▼前谷浩之(南丹教育局)

▼瀬川真由(宇治市立笠取第二小)

質美小／高澤菜緒(亀岡市立千代川小)

和知小／校長 尾上逸夫(南丹市立神吉小)

▼大北優美子(亀岡市立曽我部小)

蒲生中／久保正典(亀岡市立南桑中)

▼小畑正彦(亀岡市立大成中)

▼山下裕也(亀岡市立別院中)

瑞穂中／▼後藤満(南丹市立殿田中)

▼杉本卓也(八幡市立男山中)

和知中／教頭・新宮雅之(亀岡市立高田中)

▼山本隆史(南丹市立園部中)

▼塩谷文雄

(南丹市立大野小、事務職員)

【転入等】()は前任校等。

竹野小／教頭・湯浅俊治(南丹教育局)

▼長尾朋美(福知山市立細見小)

▼川内いずみ

(南丹市立殿田小、養護教諭)

丹波ひかり小／校長・法貴雅男(松山小)

▼教頭 京都府総合教育

センター派遣・早正是

(京都市立桃山小)

▼寺尾昌子

(南丹市立殿田小)

▼木村友幸

(八幡市立八幡第四小)

▼小畑輝恵(新規採用)

下山小／教頭・川勝明彦(亀岡市立青野小)

▼三嶋浩(三ノ宮小)

▼林明子(南丹市立八木小)

▼山内洋(三ノ宮小)

▼前谷祐子

(竹野小、養護教諭)

松山小／校長・山内幸博(南丹市立園部小)

▼野口博之(和知小)

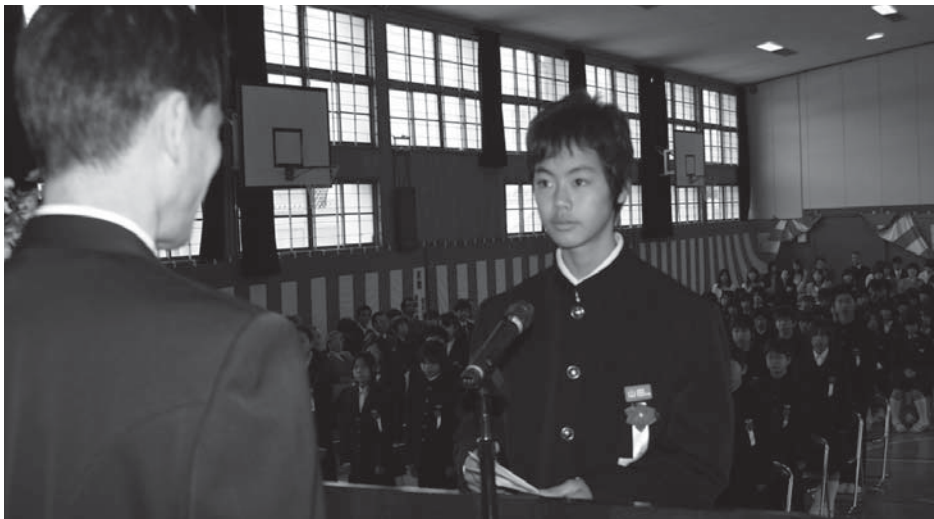
▼鍋田暁子(丹波ひかり小)

▼松山泰輔(三ノ宮小)

▼久瀬智子(新規採用、事務職員)

▼中野善文(和知小)

▼小牧綾美(新規採用)



力強く入学生代表の言葉を述べる山田大地さん(瑞穂中学校・大朴)



校長先生から教科書を受け取る新入生
(下山小学校・下山)



お兄さんお姉さんからの「歓迎の歌」を聞く新入児
(わちエンジェル・大倉)



今後の抱負を述べる岩崎雄造会長(商工会本所・蒲生)



豪華に飾られた人形を見つめる来場者(みずほ人形の家「みやび」・質美)

忘れられない思い出の日

入学・入園式

町立学校の入学式が、四月八日に小学校、九日に中学校で行われました。今年の入学生は、八つの小学校(竹野、丹波ひかり、下山、松山、明俊、三ノ宮、質美、和知)で計百二十八人、三つの中学校で計百四十二人。新入生たちは、新しく始まる学校生活への期待に胸を膨らませていました。

四月十一日には須知幼稚園で入園式が行われ、二十六人が入園しました。また、四つの保育所(上豊田、同下山分園、松山、わちエンジェル)には計六十二人が入園し、お兄さんお姉さんやお友だちと楽しく遊んでいました。

京丹波町商工会が発足

京丹波町商工会開所式

京丹波町商工会(岩崎雄造会長)の開所式が四月二日、松原町長ら来賓や商工会関係者が出席する中、蒲生地内の商工会本所で開催されました。

同商工会は、旧丹波・瑞穂・和知町商工会が平成十九年四月に合併協定書を締結し、約一年間をかけて方向性などを協議され、本年四月一日に発足。会員数は四百七十八人で、基本理念を「繁栄企業づくりに貢献する商工会」とし、本所、瑞穂・和知支所を拠点に地域の発展・振興をめざして活動されます。

人形が結ぶ ふれあいの輪

ふるさと人形展

四月三日から四月七日までの五日間、みずほ人形の家「みやび」で、春恒例の「ふるさと人形展」が開かれました。

同人形展は、平成四年から続く伝統行事で、人形展を運営するふるさと体験資料館運営委員長の北村始子さんは「協力して取り組むことで人間づくりにつながるし、人形が多くの人とのふれあいの輪を広げてくれます」と話していました。

ひな壇に飾られた昔懐かしい土人形や華やかなひな人形は、訪れたみなさんを楽しませていました。



「丹波黒大豆の明日を担う」をテーマにしたパネルディスカッション(和知ふれあいセンター・本庄)

最高級品質の丹波黒大豆を

京丹波町黒大豆生産者大会

京丹波町黒大豆生産者大会が四月十六日、和知ふれあいセンターで開かれ、生産者など約八十人が参加しました。

大会では、京都府農業総合研究所・岡井主任研究員が「十九年産黒大豆の現状、裂皮と色抜けの発生原因と対策」をテーマに講演し、続いて「高品質黒大豆づくりについて」をテーマに地域特産物マイスター・山本博一さんが、地元の篠山市で営まれている黒大豆栽培の現状を踏まえた講演をされました。その後、京都府南丹農

業改良普及センター・西畑副所長をコーディネーターに迎え、岡井講師と山本講師、町内の黒大豆生産農家代表の寺井清司さん(富田)、山内善継さん(市場)の五人でパネルディスカッションが行われました。

大会の最後には、生産者を代表して「A京都和知支店の黒大豆部会長・畑中光好さん(中山)が、「日本一の最高級黒大豆を作り続ける」と力強く大会宣言をしました。



大会宣言を行う畑中光好さん

三ノ宮小／校長・森久恒(同校・教頭)
▼教頭・稲澤直美
(丹波養護学校亀岡分校)
▼森田一彦(松山小)
▼野々口祐子(松山小)
▼藤原潔(丹波ひかり小)
▼石田奈緒美(新規採用)
▼質美小／教頭・山内朝文
(南丹市立園部第二小)
▼薬師川洋子(丹波ひかり小)
和知小／校長・今泉文雄(丹波ひかり小)
▼村山博司(南丹市立殿田小)
▼橘康生(亀岡市立城西小)
▼桐亜希(新規採用)
▼大坪杏香(新規採用 栄養教諭)

蒲生野中／薬師川智(瑞穂中)
瑞穂中／▼澤田雅文(蒲生野中)
▼西垣一也(和知中)
▼川勝彰(向日市立寺戸中)
▼千種慎三(新規採用)
和知中／教頭・内藤正高(南丹市立殿田中)
▼安村一彦(南丹市立八木中)
▼清水博之(南丹市立園部中)
▼沼田政治
(亀岡市立南桑中、事務職員)
【退職】()は前任。
大西 弘二(三ノ宮小・校長)
▼兼田文二(下山小・教頭)
▼中西 朗(質美小・教頭)

▼岡田由加里(竹野小)
▼今西雅美(丹波ひかり小)
▼高橋八重子(和知小)
▼小林美登里(下山小、養護教諭)
京丹波町婦人会
会長／小森敏子(実勢)
副会長／片山悠紀子(広野)
▼西田光子(下大久保)
庶務／庄林幸子(中倉)
▼吉田美枝子(蒲生)
会計／乾清美(大倉)

京丹波町消費生活グループ
会長／田畑美さ子(蒲生)
副会長／文字倭子(本庄)
会計／西田かな江(下大久保)
委員／横山弥生(口八田)
▼野口和子(曾根)
▼今西絹代(井脇)
▼中西タモ子(八田)
▼前林初美(市場)
▼西村祥栄(広野)
監査員／野田康子(高岡)
▼片山いそ子(安栖里)

新体制で地域の
防災活動を

京丹波町消防団入退団及び役員任命式

平成二十年度京丹波町消防団入退団及び役員任命式が四月一日、岡本町議会議長をはじめ来賓や消防団員が出席する中、蒲生野中体育館で行われました。今年度は幹部役員の改選があり、松原町長が森良行団長を任命後、森団長が副団長などの幹部に任命書を交付しました。また、今年度の新入団員四十四人を代表して、山口知哉さん（下山）が入団者宣誓を行いました。

幹部及び入退団者、表彰受章者は次のみなさんです。（敬称略）

【幹部役員】

団長 森良行
副団長 梅原好範▽真野勝也

■丹波支団

支団長 湊嘉秀
分団長 樹山敏彦▽松山征義
▽長澤誠▽中野守
▽田中誠▽湊和之
▽稲葉真一
副分団長 小谷誠之▽杉本昌洋
▽林淳▽谷垣年昭
▽堀内浩二▽松木稔
▽谷口清一

■瑞穂支団

支団長 増谷隆男
分団長 川寫勇人▽伊藤佳朋
▽坂本信幸▽橋本秀樹
▽山根一明
副分団長 西村正義▽松村悟
▽居谷太志▽西村孝之
▽西田和史▽伴田兼一
▽上田真二▽津田康裕
▽隅田光郎▽堂本学

■和知支団

支団長 栗林英治
分団長 前林二郎▽大田有次
▽片山弘明▽片山英夫
副分団長 宇野浩史▽田中晋雄
▽堀敬之▽川邊智行
▽堀太▽谷隆茂
▽広瀬正明▽竹内伸広

【新入団員】

■丹波支団 林忠昭▽久保元剛
▽一井育▽吉田一智
▽森本統▽山田純一郎

▽由良渉▽山崎将司

▽武内雄太▽浦宗優

▽谷村隆之▽永井吉幸

▽北村誠将▽小森康智

▽細井志郎▽山口知哉

▽大槻太▽鈴木重規

▽谷内紀貴▽梅垣祐太

▽由里正樹▽東山林太郎

▽奥井有規▽山内一晃

▽三好正稔▽田畑敬信

▽山内敏行▽林良史

▽田中康義▽田中亮平

▽松下浩明▽田井明之

▽野間大輔▽久保克敏

▽戸嶋賢二▽森敦夫

▽梅垣晋▽矢田操樹

▽人見治之▽細見博己

▽竹村嘉仁▽中尾光良

▽太田将▽野村雅浩

▽塩田誠▽木南哲也

▽竹村洋▽中村誠

▽田中明博▽伴田辰夫

▽谷掛義尚▽山田孝幸

▽北村昌喜▽北村吉一

▽朝倉礼行▽谷岡保

▽松永博志▽澤井健二

▽山内秀夫▽北村猛

▽立屋登志夫▽出野和彦

▽大田美久▽奥戸俊寿

▽吉田学▽堀慎輔

【退団者】

副団長 太田創二▽西山芳明
■丹波支団 一谷勲▽野村政直

■和知支団

▽中村達也▽和久田明彦
▽山田信司▽原澤真
▽芦田信司▽高谷和幸
▽野口哲也▽谷掛耕治
▽内海謙治▽北島達也
▽田中博典▽山下益良
▽吉岡裕介▽北村良彦
▽山本智之▽太田裕
▽谷村昌一▽出野幸雄
▽桐野正則▽藤田勇生
▽鳥飼悟
■瑞穂支団 上田勝▽軽野篤
▽樋口彰▽上林一弘

書彩の美しさにうつとり

書彩会・京丹波展

書家・宇阪武美さんが主宰する「書彩会・京丹波塾」の作品展「書彩会・京丹波展」が三月二十九日・三十日の二日間、道の駅「丹波マーケス」コミュニティホールで開かれました。

日展や京展での入賞歴を持つ宇阪さんは十三年前、病気の療養を兼ねて本町に移住。自宅で書道教室を開き、今も闘病しながら制作活動が続けています。宇阪さんが「京丹波町へ感謝を込めて」と開いた今回の作品展には、宇阪さんの代表作「炯」や「絆」をはじめ、書を仕立てた屏風やついたて、掛け軸など、塾生二十人の力強い作品など計五十点が展示され、一筆一筆に心のこもった独創的な作品が訪れた人びとの目を引いていました。



興味深く作品を見つめる来場者（丹波マーケス・須知）

住民自治によるまちづくりを目指して

京丹波町北部振興会総会

京丹波町北部振興会の総会が四月十九日、松原町長ら来賓や関係者が出席する中、細谷共同集会所で開催されました。

総会では、平成十九年度会長の藤田正之さん（西河内）が、「平成二十年度は新役員体制のもとで、北部地域の課題である限界集落への対策やまちづくりのあり方などを真剣に取り組まなければならない」と開会のあいさつをしました。その後、十九年度事業と決算を報告し、二十

年度事業計画と予算、藤田昌啓会長（西河内）をはじめとした新役員を承認しました。

北部振興会は、平成十七年四月に西河内、下栗野、細谷、上栗野、仏主の五集落で組織され、住みよい地域づくりを目的に、研修会や体育大会、ミニ文化祭、地域内の環境整備などに取り組み、本町が進める住民自治組織によるまちづくりを先進的に実践されています。

深まる友好関係

姉妹都市協会会長・理事歓迎会

姉妹都市協会のティナタラク会長、ジョアント・トマス理事の歓迎会が四月十九日、「丹波マーケス」コミュニティホールで開かれ、岡本議長ら来賓や国際交流協会員など約四十人が参加しました。

オーストラリア・ホークスベリー市との交流は旧丹波町から続いており、今回は新たに姉妹都市協会会長になられたティナタラクさんが、就任あいさつと当町の現状を知るために来町。歓迎会では、



集落間を越えて地域の活性化を考える北部振興会の総会（細谷共同集会所・細谷）

わたしたちの町

人口

17,312(−44)

男

8,207(−15)

女

9,105(−29)

世帯数

6,475(+3)

5月1日現在／()は前月比



訪町のあいさつを述べるティナタラク会長（丹波マーケス・須知）

ティナタラク会長が「ジンベア前会長が築いた強い友好関係を続けていきたい」とあいさつし、日本の伝統文化である「尺八・お琴演奏」を、参加者とともに興味深く聞き入っていました。また、翌日には町内の各中学校や名所などを見学されました。

【消防庁長官表彰】
永年勤続功労章

西山芳明（副団長）

【日本消防協会会長表彰】

功績章 太田創一（副団長）
精績章 細尾利之（分団長）

▽村山直樹（同）

▽片山文樹（同）

勤続章 奥戸俊寿▽北村昌喜

【丹波地方消防連絡協議会長表彰】

田端雄市（部長）▽竹下三好（同）

▽山田信司（同）▽村山智広（同）

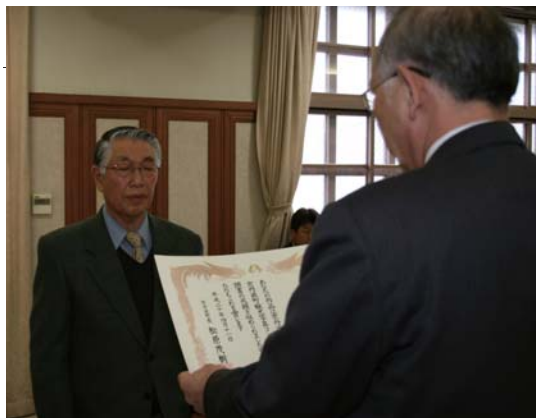
▽竹内政彦（同）▽豊嶋浩史（同）

▽山田直喜（同）▽庄林英樹（同）

▽木上孝（同）▽竹内俊行（同）

▽十倉隆英（同）

※表彰時点の階級を記載



町長から賞状を受け取る相馬錦一さん(役場議場・蒲生)

写真が伝える町の魅力

京丹波町観光写真コンクール

第一回京丹波町観光写真コンクールの表彰式を四月十一日、写真家の中田昭審査委員長や入賞者らが出席する中、役場議場で開催しました。式では、松原町長が「私たちの町の良さを再認識させていただいた。これからは写真を通じて町のPRをしていきたい」とあいさつしたあと、主催者から入賞者に対して賞状と盾を贈りました。入賞者は次のみなさんです。(敬称略)

【特選】

京都府知事賞 築山忠則(小畑)

京丹波町長賞 相馬錦一(京都市)

【準特選】

京都府観光連盟会長賞 寺井 豊(下山)

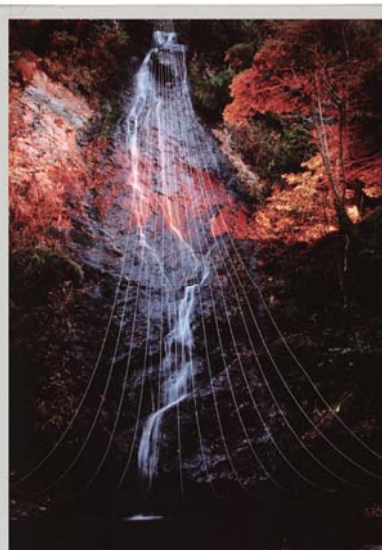
京都新聞社賞 伴田英雄(南丹市)

京丹波町議会議長賞 今西 保(口八田)

【入選】

広瀬 誠(角) ▼ 西村郁代(口八田) ▼ 西田真弘(福知山市)

▼ 大地洋次郎(福知山市) ▼ 白木勇治(福知山市)

京丹波町長賞「燃える」
相馬 錦一京丹波町議会議長賞「八坂神社御田祭」
今西 保京都府知事賞「由良川秋景色」
築山 忠則

編集後記

4月の人事異動で広報担当になりました新しい編集子です。これまでは広報京丹波の読者でしたが、いきなり編集子となり、取材と記事作成に追われて時間が過ぎるのが早く感じる日々を過ごしています。広報紙は町内情報や行政情報をお知らせする大切な役割を持っていますので、みなさんにわかりやすい形で編集していきたいと思っています。また、なるべく多くの方が紙面に登場いただけたらと思いますので、取材や写真撮影の際にはご協力をお願いします。(K)

【おわびと訂正】広報京丹波第30号の10ページ、教育委員会の電話番号「84-2100」は「84-0028」の誤りでした。おわびして訂正します。

京都府観光連盟会長賞「紅の道」
寺井 豊京都新聞社賞「夕化粧の蕎麦」
伴田 英雄